

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3770500415
法人名	医療法人社団 素耕会
事業所名	富士グループホームほほえみ
所在地	香川県観音寺市観音寺町甲2899-3 (電話)0875-57-5775

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価決定日	平成21年1月15日

【情報提供票より】(20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年5月12日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計 9人
職員数	10人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 2階建の2階部分
------	--------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	15,000+実費	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	400円	おやつ	100円
	又は一日あたり			1,100円

(4) 利用者の概要(12月16日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	77歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富士クリニック 永康病院 小野歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は医療法人で、建物は南欧の田舎家の外観で、利用者の一人ひとりに目配り・気配りができ、家族のような暮らしで我が家のようにくつろげる環境である。居室もプライバシーの保護と使い易さを優先した設計である。また、火災報知器、ナースコールなど安全面の配慮をしている。建物内部は木のぬくもりが感じられ、食堂には天窗も取り入れ自然光が入り、大変暖かい雰囲気である。食事利用者と職員が役割分担し助け合い、手作りの家庭料理を作り共に食事を楽しんでいる。栄養面、健康面など総合的に母体のクリニックとの連携があり利用者・家族・職員間の信頼関係を生んでおり今後を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価での改善課題については、管理者、計画作成者、職員などが一丸となって検討している。また、ミーティングや勉強会でのテーマにして施設の質向上に活かしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、計画作成者など職員全員で話し合い取り組んでいる。今後も評価の意義を共通理解し、継続し自己評価に取り組む姿勢を期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>メンバーは市の担当者・自治会長・地域有識者・法人理事・家族代表・利用者代表などで構成されている。会議では事業所の現状報告、ホームの行事報告、入退所報告、ボランティア依頼、外部評価結果報告などを行い、それに伴う問題点について、意見、アドバイスをいただきサービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置している。家族の面会時に声を聴く努力をし意見・苦情などを極力うかがうようにしている。また、話し易い雰囲気づくりに努めている。常にコミュニケーションを重視しているため具体的な苦情などは出ていない。意見があった時は誠意を持って対処する準備はできており、日頃の気配りの努力がうかがえる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域のあらゆる行事に参加している。地元の中学校とは職場体験実習も受け入れ交流の機会をもっている。運営推進会議を通じて自治会、老人会とも連携をもち、常に地域の理解と協力を得られるように努めている。今後も、さらに地域に浸透し支え合い、連携の推進を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念「誠心」を日頃のケアに心がけているが、さらに、「住み慣れた地域で、互いに助け合い、その人らしくを大切に、心安らぐ生活を提供」をスタッフ全員で考え、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りでスタッフ全員が唱和し、細部については日々の業務の中やミーティングでも、日常的に確認する努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会の行事(地域運動会、文化祭、お祭りなど)に参加し、ホームの行事にも招待している。地元の中学生の体験実習では、貴重な高齢者の理解の場として喜ばれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に取り組み、外部評価を受けることにより職員の意識の高揚と認知症の理解が深くなり、事業所で働くものとして自己を見直す節目となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の運営推進会議で出された意見を重視し、研修会などでの課題にするなどプラス思考で取り組み、ケアの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の高齢化担当者との連携を密にし、情報、問題点の解明や事例によってはアドバイスをいただくなど連携し、サービスの質向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1か月に1回、利用者の日常生活の様子を一筆加えて写真と共に郵送し報告している。施設での体調変化や大切な報告は電話や家族の来訪時に報告を行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、運営推進会議、家族の訪問時などで、何でも言い易い雰囲気づくりに努力している。家族的であるためか意見・要望は出ていない。</p>	○	<p>今は苦情が出ていないが、今後のためには、意見や気兼ねない話し合いの環境づくりの設定などを考える工夫を期待したい。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者に悪影響を与えないよう、職員の配置には配慮しており、利用者には細心の注意をはらっている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の人数の関係で研修参加も難しいが、機会があれば交互に受講できるよう努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホーム施設へ全職員の視察研修や相互評価事業への参加が行われている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学してもらったり、来所できない利用者には必ず入所前に何度か面会を重ね、スタッフと話し合い慎重に決定している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活の場、「家」という思いを強く持ち、その人の意見を尊重し、利用者の得意とするもの、経験を活かしたことを行うなどの場面づくりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で、声かけをし利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には、家族から情報を得、個人記録へ記入し申し送りにより情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、申し送りやカンファレンスで話し合い意見をケアプラン作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族の思いや要望、意見を聞き、介護計画の期間に応じモニタリング、アセスメント、カンファレンスを行っている。また、状態が変わり対応できない場合は、利用者、家族、関係者と検討、見直しを行い現状に即したケアプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医から事業者の母体であるクリニックに変更したいという家族の要望により受診同行しており、利用者・家族が安心できるよう柔軟に支援している。また、かかりつけ医への受診に関しても必要な場合、送迎、同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望しているかかりつけ医の受診を支援している。受診や通院は基本的には家族にお願いしているが、必要なら同行するようにしており、利用契約時に説明し、同意をえている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療を要する方や老衰により寝たきりになった時には、家族や利用者本人、スタッフ、主治医がカンファレンスを行い、利用者が最も良い方法を取れるよう常に話し合い共有している。「医療連携体制について」の説明書を作成し、書面で同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前での介護や誘導時の声かけについても、プライバシーの配慮に心がけている。日々スタッフ同士が気をつけるよう意識づけが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には1日のリズムはあるが、利用者の体調、気分によってどのように過したいか、利用者のペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員一同が利用者のできる力を把握しており、食事の調理や、準備、後始末など自分のできることを積極的に手伝ってもらっている。その過程でのコミュニケーションも大切にしており、明るく楽しい様子が見える。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルサインチェック後入浴している。基本的に2日に1回の入浴であるが、入浴順は利用者一人ひとりの希望で入浴を楽しめるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意とする事柄、お願いできそうな仕事を頼み(農園、洗濯、調理、花壇作りなど)、利用者一人ひとりの力を活かした役割を支援している。感謝の言葉を伝えることで楽しみにつながり、スタッフと利用者の信頼関係が構築されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日の日課に散歩を取り入れ、外の空気や景色を味わってもらっている。場所の選択も利用者が決めている。また、週に一度日曜日はドライブに行ったり、季節によっては花見などに出かけ、楽しい時間を過ごしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。チャイムを設置しており、通ればチャイムが鳴ることで安全が配慮されている。利用者の外出(外に出る)が予想されると、さりげなく声かけをし一緒に付き添い安全に配慮するなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の避難訓練で避難経路の確認をしている。同時に運営推進会議では、地域の方々への協力も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容は皆同じであるが、利用者の状態変化がある時は医師、栄養士と相談指示を受け、必要な栄養摂取ができるようにしている。水分量はリビングに急須を置いたり、夜間はペットボトルを個別においている。	○	リビングに急須を置いたり、夜間居室にペットボトルを置いているが、個人個人の水分摂取量の記録など確認の工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雰囲気にあったバックミュージックをかけたり自然光がはいっている。カーテンや照明で明るさも調節されており和やかに感じる。居室や廊下に季節に合った物や、利用者と一緒で作成した掲示物で飾られ、居心地よさを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃家庭での馴染みの品物の持込をお願いしている。持参品は少ないが、配置は本人の使い易い状態に任せ、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。		